第3章

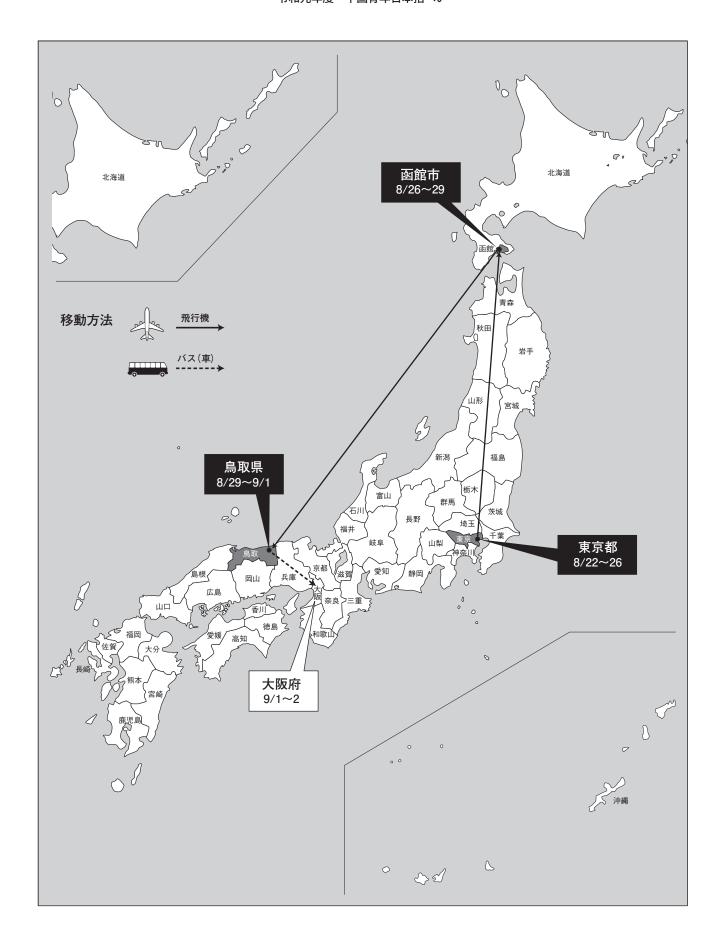
中国青年日本招へい

行動地図 行動記録 事業報告





令和元年度 中国青年日本招へい



第3章 中国青年日本招へい

行動記録

令和元年度 中国青年日本招へい

	月日	時間	行動日程	滞在都市	
1	8月22日 (木)	17:25 19:00	中国青年羽田着ホテル着、チェックイン	東京	
2	8月23日 (金)	9:30-11:30	<課題別別視察 I > 株式会社和える訪問 ・事業理念説明 ・質疑応答		
		12:00 - 13:00 14:00 - 15:30	昼食 裏千家東京道場訪問 ・茶道体験 ・記念撮影		
		18:10 - 18:30 18:30 - 20:00	安藤裕 内閣府大臣政務官表敬訪問 (代表者のみ) 安藤裕 内閣府大臣政務官主催歓迎会		
3	8月24日 (土)	10:00 - 11:00	<課題別別視察Ⅱ> ドーミーレジデンス市ヶ谷訪問 ・歓迎挨拶(ドーミーレジデンス市ヶ谷代表者) ・会社概要説明 ・館内見学		
		13:00 – 13:45 14:00 – 16:00	昼食 ベネッセコーポレーション訪問 ・ベネッセグループ紹介 ・グローバルこどもちゃれんじ事業紹介 ・介護事業 (ベネッセスタイルケア) 紹介 夕食 (自由)		
4	8月25日 (日)	10:00 - 16:00 16:00	日本・中国青年親善交流事業40周年記念 既参加青年との意見交換会テーマ:「日中青年交流と私」・主催者あいさつ・出席者紹介及び進行確認・日本側講演・中国側講演・中国側講演・質疑応答・昼食・日本青年代表団による派遣報告(40団)、派遣に向けて(41団)・グループ別座談会テーマ:1.教育、2.働き方、3.科学技術、4.家族観、5.文化・流行・グループ別座談会まとめ発表解散、夕食(自由)		
5	8月26日 (月)	10:15 11:35 12:30 - 13:30 14:00 - 14:30 15:30 - 17:00	羽田空港発 (NH553) 〈函館市プログラム〉 函館空港着 昼食 平井尚子 函館市副市長表敬訪問 函館市国際水産・海洋総合研究センター視察 ・講義「地域資源を活かした産学官連携の取り組み」 ・施設説明 ・館内見学 歓迎会	函館市	

	月日	時間	行動日程	滞在都市
6	8月27日	9:30-11:30	箱バル不動産訪問	函館市
	(火)		・講義「地域の課題の取り組みから起業へ」	
			・視察	
		11:00 - 11:30	元町散策(徒歩)	
		12:00 - 14:00 14:30 - 15:15	金森倉庫群散策(自由行動、昼食込) 立待岬見学	
		14.30 – 13.13	・地元青年と合流	
		15:30 - 17:00	地元青年たちとの意見交換	
			テーマ:「高齢化社会と地域振興」	
		17:00 - 18:30	夕食	
		19:00 - 19:45	函館山見学	
	8月28日	9:30-11:00	北海道教育大学函館校訪問	
7	(水)		・講義「対中国経済と日本の地域振興の展望」	
		11:30 - 12:30	昼食	
		13:30 - 15:30	函館歷史名所五稜郭公園訪問	
		16:00 - 17:00	函館蔦屋書店訪問	
			・説明「蔦屋書店の地域振興への取り組み」 ・店内案内	
		17:00 - 18:00	夕食	
		18:00 - 19:00	函館蔦屋書店店内自由行動	
	8月29日	10:00 - 10:30	函館朝市訪問	
8	(木)	10.20 10.20	・施設説明、館内案内	
		10:30 - 12:30 14:30	朝市散策(自由行動、昼食込) 函館空港発	
		16:35	羽田空港発	東京
			<鳥取県プログラム>	↓
		17:50	鳥取砂丘コナン空港着	鳥取
9	8月30日	9:00 - 9:30	細羽正 鳥取県交流人口拡大本部 本部長 表敬訪問	
	(金)	10:00 - 11:30	新日本海新聞社訪問	
			・会社概要説明	
			・社内案内	
		12:00 - 13:00	昼食 表山圏目とスペレ始目巻	
		13:50 - 14:50	青山剛昌ふるさと館見学 ・館長による施設説明	
		15:20 - 16:20	JA鳥取中央梨選果場訪問	
			· 施設説明	
			・場内見学	
		19:00 - 20:30	歓迎会 (ホームステイマッチング)	
			ホームステイへ	
10	8月31日		終日ホームステイ	
	(土)			
11	0月1日	14:00	ホームステイ先から集合	
['']	9月1日 (日)	14:00 18:00	- ホームスティ光から乗行 - 大阪ホテル到着	
\square	(11)	10.00	750A T 7 11 29/41	7764
12	9月2日	11:30	関西国際空港着	
	(月)	13:50	関西国際空港発 (CA928)	<u> </u>

事業報告

令和元年度 中国青年日本招へい

内閣府は、令和元年度日本・中国青年親善交流事業 (第41回) による中国青年代表団の招へいを、令和元年8月22日から9月2日までの12日間の日程で実施した。

代表団は、中国国際青年交流センター副主任の洪桂梅団長を始め、浙江省青年連合会副主席の呂義聡副団長、共青団吉林省委員会宣伝部部長の安伯秘書長、通訳及び団員26名の合計30名で構成された。

各地における活動の概要は、以下のとおりである。

東京プログラム (8月22日~26日)

8月22日17時25分、中国青年代表団は、羽田国際空港 に到着した。

8月23日午前、一行は株式会社和えるを訪問し、日本の伝統文化の次世代への伝承の取り組みについてのお話を伺った。

午後、一行は裏千家東京道場を訪問し、茶道の一連の動作について解説を受けた後、手ほどきを受けながら点茶を体験した。

その後、代表者は、安藤裕 内閣府大臣政務官を表敬 訪問し、親しく懇談した。

18時30分からホテルルポール麹町にて、安藤裕内閣府 大臣政務官主催の歓迎会が開催された。青少年団体関係 者、内閣府青年国際交流事業既参加者等多くの出席者を 前に、中国青年は文化紹介として歌や少数民族の伝統舞 踊を披露し、盛況であった。

8月24日午前、ドーミーレジデンス市ヶ谷を訪問した一行は、説明を受けながら館内を見学し、日本のサービスアパートメントについて知見を得た。中国青年からは「細やかな気遣いが感じられた」「このような施設の管理や運営など独自の取り組みを学べた」等の感想があった。

午後、一行はベネッセコーポレーションを訪問し、教育と介護の二事業の先進的な取り組みについて説明を受けた。

8月25日、一行はホテルルポール麹町にて、日本・中 国青年親善交流事業40周年記念 既参加青年との意見交 換会に参加した。

「日中青年交流と私」をテーマに、日本側は伊藤洋平公益社団法人日本中国友好協会 理事・青年委員会委員 長、中国側は倪健 中華人民共和国駐日本国大使館 政治部 公使参事官からそれぞれ講義があった。その後、中国青年らは日本人参加者と五つの小グループに分かれ、それぞれ教育、働き方、科学技術、家族観、文化・流行について意見交換を行った。参加者からは、「お互いの国の共通点・相違点を知ることができ、とても有意義な時間だった」「日本国内の報道だけではなく実際に見て感じる事の大切さを改めて考えさせられた」等の感想があった。

8月26日10時15分、一行は函館市に向けて羽田空港を 出発した。



株式会社和えるにて、商品を手にとって体験する



---裏千家にて点茶を体験する

函館市プログラム(8月26日~29日)

8月26日から29日まで、函館市にて地方プログラムを実施した。

一行は、函館市到着後、函館市役所にて平井尚子 函館市副市長を表敬訪問した。副市長からは函館市の魅力や中国との縁などについてのお話があった。

その後、函館市国際水産・海洋総合研究センターを訪問し、「地域資源を活かした産学官連携の取り組み」をテーマに特別講義を受けた。

19時から歓迎会が開かれ、地元青年や関係者等、多くの方の歓迎を受けた。伝統芸能「江差追分」のパフォーマンスでは、中国青年も踊りを体験し、参加者と一体となって楽しんだ。

翌8月27日、一行は箱バル不動産の古民家を活用した 地域再生の取り組みについて説明を受けた後、元町エリ アを散策しながら同団体の事業にてリノベーションし活 用されている建物を見学した。 午後、一行は「高齢化社会と地域振興」をテーマに地 元青年との意見交換会地元青年たちとの意見交換会に参 加した。

8月28日午前、北海道教育大学函館校にて「対中国経済と日本の地域振興の展望」をテーマに講義を受けた。

午後、五稜郭公園を訪れた一行は、ボランティアガイドの解説を受けながら箱館奉行所と五稜郭タワーを見学し、その歴史について学んだ。その後函館蔦屋書店を訪問し、地域の居場所づくりの取り組みについて説明を受け、店内を視察した。中国青年からは、「このような形態の書店は中国にないが、需要があるだろう」との声があり、熱心に質問をしていた。

8月29日午前、一行は函館朝市を訪れ、事務局の解説 を受けながら場内を視察・散策した。

14時30分、一行は鳥取県に向けて、函館空港を出発した。



平井尚子 函館市副市長と記念品を交換する



函館蔦屋書店にて店内を視察する



箱館奉行所にて、ボランティアガイドから説明を受ける



歓迎会にて、モンゴル族の伝統的な歓迎の儀式を 出席者に体験してもらう

自身の考え方を改めさせられた4日間

ローカルユース代表

北海商科大学商学部観光産業学科第三学年に所属している齋藤友里奈です。私は2019年度日本・中国青年親善交流事業(以下「日中交流事業」)に日本代表青年として参加します。この事業の一環である中国青年招へいが2019年8月26日から29日にかけて北海道函館市で行われ、該当期間中私は北海道IYEOの一員としてサポートをさせて頂きました。

自分自身が代表青年として中国を訪れる年にこのようなプログラムに携われたことを本当に幸せに思います。 4日間という限られた時間ではありましたが、毎日学ぶことだらけでとても充実していました。特に印象に残っている点が2つあります。

まず1つ目は意見交換会です。これは「少子高齢化と地域振興」という1つのテーマのもと5グループに分かれて行いました。同じテーマで意見交換を始めたにも関わらず、各グループで違った点に着目して話を進めていったところに面白さを感じました。私は日本青年代表団の中で意見交換係を担当しているため、函館で行った中国代表青年らとの意見交換会はとても参考になりました。求められていることは自分の考えているよりもっと先にあるのだと感じたので、この気づきを活用していきたいと思います。

2つ目は内閣府青年国際交流事業既参加青年の先輩方の動きに刺激を受けた点です。今回の招へいでは北海道IYEO所属の既参加青年と共にサポートをさせて頂いたのですが、先輩の臨機応変な対応や行動力,発言力には本当に圧倒されました。自分には何もできず、ただただ無力感を抱えたまま終えてしまったことが後悔です。これから日中交流事業に参加するにあたって自分に足りないものは知識だけではなく、こういった実行力なのだと肌で感じました。残された僅かな時間で自分がどこまで成長できるか、積極的に活動をしていきたいと決意しました。

今回の中国青年招へい・函館プログラムで私が学んだことや感じたことを他団員と共有して、10月下旬からの日中交流事業をより良いものにできるよう努めてまいります。



ローカルユースと意見交換をする中国青年



グループでの意見交換内容を発表する筆者



八幡坂で集合写真

鳥取県プログラム(8月29日~9月1日)

8月29日から9月1日まで、鳥取県にて地方プログラムを実施した。

中国青年一行は、8月30日、鳥取県庁にて細羽正 鳥取 県交流人口拡大本部 本部長を表敬訪問した。細羽本部 長からは歓迎の言葉を受けるとともに、鳥取県の魅力等 についてお話をいただいた。

その後、新日本海新聞社にて地元新聞社としての取り 組みについてお話を伺い、社内を見学した。

午後、青山剛昌ふるさと館を訪問し、解説を受けながら、中国でも有名な漫画「名探偵コナン」の原画等が展示された館内を視察した。その後、JA鳥取中央梨選果場にて場内を見学しながら梨の出荷行程について学んだ。わずかな傷などもチェックして選果する技術は中国青年

の関心が高く、多くの質問が寄せられていた。

19時より、一行は歓迎会及びホームステイマッチングに出席し、ホストファミリーと対面した。緊張しているホストファミリーもいたが、中国青年が言葉の壁を超えて気さくに話しかけ、打ち解けていた。歓迎会終了後、それぞれのホストファミリーと共に各家庭に向かい、二泊三日のホームステイを行った。

9月1日午後、中国青年はホームステイを終え集合し、ホストファミリーとの別れを惜しみながら大阪のホテルへ移動した。

9月2日、プログラムの行程を無事終了した一行は、関西国際空港へ向かい、13時50分発CA928便で帰国の途につき、12日間の日程を無事終了した。



新日本海新聞社にて、訪問を記念した号外を発行してもらう



JA鳥取中央梨選果場にて、箱詰めされた梨を確認する



ホストファミリーと鳥取砂丘を散策する



ホストファミリーと餃子を作る

鳥取県での受入れ

私が平成28年度第38回日本・中国青年親善交流事業に参加してから、初めて鳥取で受入れプログラムをすることになりました。8月29日から9月1日までの限られた日程の中、ホームスティプログラムを鳥取でということもあり、気を引き締めて臨みました。

今回は学生の身ではありましたが、実行委員長という 大役をいただき、非常に緊張しながら実行委員会に参加 しました。自分自身がどこまでできるのか、何ができる のかを模索しながらの参加でした。鳥取県の何を見ても らうのか、鳥取県という一地域が推せる魅力、取組みと は何なのか、短いプログラムの中で何が中国青年の学び や活動への視点の一つとなるのかといったことを何度も 話し合い、視察先を選定しました。

地元で活躍する企業として「新日本海新聞社」、人 気漫画である名探偵コナンの聖地「青山剛昌ふるさと 館」、「JA鳥取中央梨選果場」の訪問を企画しました。新 日本海新聞社では、地域に根差した新聞社ということ で、シェアやターゲット層、通信機器の発達により新聞 離れが懸念される中での工夫など、中国青年から多くの 質問が出ました。

中国でも有名な名探偵コナン。「青山剛昌ふるさと 館」では、館内の像と同じポーズで写真を撮ったり、ク イズラリーをしたり、グッズを購入したりなど、時間ぎ りぎりまで多くの青年たちが楽しんでいました。 JA中央梨選果場では、名産の二十世紀梨の出荷がピークで、大量に運ばれる梨や、選果場内の設備を興味深く見学する青年たちの姿が印象的でした。

そして、中国青年たちが最も楽しみにしていたホームスティプログラム。これが、今回の受入の最重要イベントであり、実行委員総出でぎりぎりまで東奔西走し、受入れ家庭を探しました。今回が初めてのホームスティという青年もいました。昨今の通信機器の発達によりホームスティの様子はリアルタイムで共有され、どの家庭、青年たちもかけがえのない時間を過ごせたのではないかと思います。

今回の中国青年団は大学生の参加も多く、同年代との 交流という意味でも私にとって非常に有意義な時間でした。東京プログラムのディスカッションへの参加から始まった今回の受入は、今まで行ってきた鳥取プログラムや事後活動の中でも、非常に内容の濃いものでした。また、自身が中国へ派遣された際にお世話になった方を出身県にて受け入れることができたということもあり、交流の積み重ね、人と人との繋がりを強く実感しました。 今後も自分にできることから一つずつ、地道に丁寧に、 国際交流の楽しさや地域の良さを多くの人に伝えていくことが大切ではないかと思っています。

最後になりましたが、今回の受入にご協力いただきま した全ての方に深く感謝申し上げます。ありがとうござ いました。



最終日。今後の交流の先頭を走る日中青年で!



青山剛昌ふるさと館にて、コナンのポーズで

中国青年を受け入れて

とっとり青友会

私が中国青年を受け入れると言ったら、友人の反応は 微妙だった。ハイソな客人をもてなす部屋が我が家にあ るの?と部屋を心配。私自身、これまで多くの国を訪問 し、たくさんの家庭でお世話になった。また、たくさん の外国青年を鳥取県で受け入れてきた。私にとって、青 年がどこの国のどんなステイタスの人かということは全 く問題ではなかった。ただ人と人が出会うということだ けである。

受け入れた3人の方はとても清楚で優美。確かに友人が心配したように、雨漏りの跡のある小さな部屋に川の字で寝てもらうのは忍びないと思ったが、3人は我が家に到着するなりキョロキョロと部屋を見渡して面白そうにしていた。この方々なら大丈夫、どんな状況も楽しんでくれる、そう確信した。

次の日、私は朝ご飯を作らなかった。材料だけ持って1時間かけて氷ノ山のキャンプ場へ向かった。そこで自分でソーセージを焼いたり、果物を切ったりして食べてもらった。後日、その時のことを王さんはメールでこのように伝えてくれた。「普段忙しくてなかなかゆっくりできない私は、こんな静かな時間を楽しめるということが、いかに幸せなことかとしみじみ感じました。」

お昼はまた1時間かけて違う山へ登り、古民家にてお 昼を食べた。鳥取の山と食事を堪能したところで、次 は日本海へ!3人は波打ち際で何回も何回もジャンプしていた。その姿がとてもほほえましく、童心に返り私もジャンプ!そのあと、3人は晩御飯を自分たちが作ると提案してくれた。スーパーで食材をバンバンかごに入れていく。友人も招き10人分以上、10皿以上の料理をエアコンの効かない古い台所で汗をかきながら懸命に作ってくれた。間違いなく私が過去に食べた中華料理の中で一番おいしかった。お腹も心もいっぱいになった。

三日目は友人宅へ。友人は3人に袖の長い鮮やかな着物を用意していた。3人の顔がパッと輝く。友人が3人に着付けしてくれた。着物を着た3人と仁風閣を散歩。3人が大股で歩けば、曇っていた山陰の空も晴れやかに見えた。そのあと、鳥取砂丘、砂の美術館を堪能。最後に回転ずしを食べれば私の中で最高の2泊3日になる予定が、残念ながら満席。うどん屋でごめんねーと謝る私に、「すべてが最高だった。雨も砂丘を出てから降り始めた。神は味方した。満足!」と朗らかで前向きな3人だった。

中国に関する批判的なニュースを見聞きすることもあるが、本当に美しい許さん、赫さん、王さんと出会って、この3人を育てた中国を私は大好きになった。鳥取に来てくれてありがとう。我が家に泊まってくれてありがとう。出会ってくれてありがとう。心から謝謝!





第3章 中国青年日本招へい